

平成 17 年 10 月 18 日 森町協働まちづくり会議話し合いメモ

A 班 都市（生活）基盤

住民と話し合いながら協働して都市基盤を見直そう！

市街地整備

- ・豊かな自然環境と調和のとれた都市基盤整備
- ・合理的な都市計画の推進
- ・合理的な土地利用の推進
- ・森町 森の区画整理
- ・空き地の整備
- ・抽象的かもわからないが「安心」という切り口で都市基盤を考えたらどうか（ユニバーサルデザイン）（例えば、道路脇の排水溝につまずく）
- ・森町の都市計画はなんだったのか（15年経過）森町独自の考え方で。

幹線道路

- ・幹線道路整備
- ・第2東名開通に伴う幹線道路網の整備
- ・広域交通網の充実
- ・計画から40年経過してもいまだできぬ都計道路。基盤整備の見直しを。

生活道路

- ・生活道路の整備
- ・街路樹整備
- ・災害に強い道路を何よりも優先して整備する 「陸の孤島」をつくらない
- ・ユニバーサル、シルバーゾーン、幼老歩道（歩道の段差解消）

交通網

- ・コミュニティバスなど身近な公共交通網の形成（使いやすい仕組み）と交通環境（道路整備）の形成
- ・高齢者の交通手段、コミュニティバス【運転手（高齢者）利用者（高齢者、幼児、児童等）】は小型で充分
- ・観光拠点をつなぐ道路網の整備
- ・一方通行（見直し）
- ・天浜線 通学定期を少しでも安く 通勤定期できれば安く

住宅・住環境

- ・公共下水道等の整備促進
- ・まず、水道の整備（上水道）をする。（特に山間地）

- ・適正なゴミ処理対策の推進
- ・ゴミの減量とリサイクルの推進（循環型社会の推進）
- ・環境学習の推進
- ・地球温暖化対策の推進
- ・調和の取れた良好な市街地、住宅地の形成
- ・高齢者（ひとり暮らし）が安心して暮らせるまちづくり 長屋的な町
- ・若者が住みたくなる町 子育てがしやすい町 保育園の充実 定住化につながるのでは 森町に家を建てて住んでもらう 幼稚園ではだめ。保育園
- ・生活基盤 地球環境 銅板の腐食

まちなみ景観

- ・森町のイメージにあった良好な景観の形成。（一ヶ所に集約してポイントを絞る）
- ・住んでよし訪れてよしの森町創生
- ・城下のまちなみの保存（町の伝統を生かしたまちなみ）
- ・耐震化工事で街並み景観を（小京都風に）デザインする（例えば、由比町の街並み条例）
- ・町内会の美化運動を必要に応じて増やす。 住民参加により、浮いた費用で森林保全を。（不慣れな人には山は危険）
- ・用途区域を明確にし、住宅を建てやすくする。
- ・空き地、更地の利用 町民向け家庭菜園 子どもの遊び場 特産物の栽培（柿等）自由に使えるようにならないか？
- ・景観を生かした河川及びダム周辺の整備（景観を損ねるものをつくらない）
- ・商店街の活性化

公園

- ・公園の整備（活用）
- ・公園緑地（例えば、さざんか荘跡地を「森町が良く見えるん台」とネーミングし公園として整備）

防災

- ・総合的な防災体制づくり 自主防災 消防体制 救急救助 被害抑制
- ・災害の際、トイレが非常に不足するので何らかの準備が必要（例えば、町で予算を組んでストックし、通常はイベント等へリースする。）
- ・森町に久しぶりに帰省した人たちは、太田川の川底が上がっているのにビックリすることが多い。 太田川に水を流し、有事に対応。

消防

- ・消防団員の定年廃止 やる気のある人、地域に常時いる人を中心に編成（例えば、OBの組織化）手当ても増額。
- ・消防団の合併

- ・自らの郷土は自らで守る。(例えば、保育園、幼稚園の子どもに消防(団)活動を参加体験させ、小さいときから意識のすりこみをする。)

防犯

- ・地域防犯活動の推進
- ・町民全員での安全パトロール(挨拶)
- ・街路灯の整備(センサー付き等)
- ・警察署とのより良い関係 安心して住める町
- ・例えば、警察OBを防犯協会顧問にし、署員との情報交換を強化する

交通安全

- ・交通安全対策の推進

情報

- ・情報通信活用、能力の向上
- ・情報通信基盤の整備(山間地) 町内全域、ADSL、インターネット等

その他

- ・イベントの開催
- ・目玉になるプロジェクト(例えば、賞 日本一短い高齢者への手紙、川柳、俳句等)
- ・森町病院「患者さん是非どうぞキャンペーン」
- ・特産物をつくる
- ・資格がないとできない、してはいけないことがあるが、「人の役に立ちたい」という町民の自然な気持ちを汲み上げる組織が必要。
- ・足元から見つめなおそう。
VS ・無為無策、地盤沈下、意気消沈、疲弊、傍観

B班 町民参加・協働

- ・活性化センターを作る
- ・協働研修 町民みんなが各年代で研修 各地区ごとで
- ・先進地域や外国等で協働のミッション等を行うことで研修する。
- ・内容 子育て・行財政・防災・健康・福祉
- ・企業との連携 税制の改革 ボランティアへの寄附の免税等
- ・生産者と販売者、消費者が集まって話し合う。
- ・地域コミュニティとテーマコミュニティの両立、共同
- ・矢崎地区 青年団、消防団ある。横社会をつくっている。
- ・情報のスピード化 光ケーブル等の整備
- ・情報の共有 インターネットとホームページの活用
- ・ボランティア登録と参加仕組みづくり
- ・ボランティア活動 NPO活動の組織の立ち上げ及び後押し、また、人材の育成を行政で。
- ・川の清掃や指導を監視などをボランティアで。

C班 健康・福祉

健康

- ・森町病院がもっと良くなると良い。 もっと色々な分野が関わってほしい。
- ・天浜線に森町病院前駅をつくる。

福祉

福祉サービス

- ・ユニバーサルデザインの導入（町全体で考えるようにしたい。）誰でも使いやすいものに。
発展させると福祉、保健にもつながる。
- ・相談できるネットワークづくり（充実）
- ・エコマネーの導入について検討。

障がい者（児）福祉

- ・障がい者（児）のための考え少ない。
- ・障がい児学童週1回では少ない。場所の確保が大切。
- ・障がい児は町の中心にいる場所があると地元の人とふれあえる。
- ・障がい者（児）施設 山の中でなく、町の方が良い。
- ・重病患者の子どもを受け入れるキャンプがアメリカにある。 障がい者を預るなどの活動。

障がい児を受け入れられるキャンプづくり - 全国初

医療関係の充実、ボランティアの育成（介護、医療）

キャンプを核とした拠点づくり エコマネー、ボランティア拠点 - 場所は、統合後の空いた高校などが良い。

- ・障がい者の隔離は家族が悪いものだと思いたがる。（外国は違う）
- ・障がい児の親が外に出る。横のつながりを持つという動きが出ている。 障がいを持つ人をどのように受け入れていくか。
- ・幼保一元化推進が望ましい時代。

高齢者福祉

- ・元気な高齢者が住みやすいまちにしたい。 介護予防
- ・高齢者の生きがいづくり 高齢者と子どものふれあい
場の提供
- ・福祉分野が広い。 団塊の世代 リタイヤ
子どもと高齢者 空き家が多く、高齢者世帯ばかり
福祉ボランティアの増加による活性化
- ・リタイヤしてくる団塊の世代の人達が活動できる場づくり
運転ボランティア、介護ボランティア、自分の技術を生かせる場所づくり
- ・お出かけ講座 健康づくり

- ・サロンを各地に広げる。月1回とかでなく週何回とし、高齢者だけでなく子どもの預りや学童保育の場とすれば、子育て支援とか新たにお金を使わずに済む。(子どものケガや事故など保証関係が問題。
- ・シニアクラブ グランドゴルフをやりたい人のため加入が多いが、役が大変だからと辞める人もいる。

地域福祉

- ・民生委員に任せず、地域で高齢者を見回る。
- ・近所の支えあい、声かけ合いの普及。(ひとり暮らし高齢者、高齢者世帯への支援)
- ・民生委員に近所のお年寄りの安否情報を連絡したら「余計なことをするな」と怒られた。こういう事はおかしい。

まちづくりの柱、方針 (基本項目、主題)	実現のための具体的な取り組み施策、事業、プロジェクト (こんなことに取り組んでいきたい)	誰が主体			いつごろまでに			
		住民	企業	行政	短期	中期	長期	超長期
	ユニバーサルデザイン							
	シルバーゾーン							
	幼老にやさしい歩道づくり(歩道の段差解消等)							
4. 住環境	1) 下水道の整備							
	2) 上水道の整備(山間地)							
	3) 適切なゴミ処理対策の推進							
	ゴミ減量とリサイクルによる循環型社会の形成							
	4) 良好な市街地住宅地の形成							
	高齢者が安心して暮らせるまち							
	若者が住みたくなるまち							
5. 景観	1) 森町のイメージにあった良好な景観形成							
	小京都+城下町のまちなみ保存、整備(耐震化にあわせて)							
	2) 住民参加の美化運動(森林保全の資金とする)							
	3) 景観を生かした河川・ダム周辺整備							
6. 公園	1) 公園緑地の整備(例えば、さざんか荘跡地)							
7. 防災	1) 総合的防災体制づくり							
	自主防災							
	消防体制							
	救急救助							
	被害抑制							
	2) 災害時のトイレ確保							
	3) 太田川災害対策(川床の上昇対策)							

記入例： 誰が主体/主な主体に 2 以上の場合はメインに いつごろまでに/短期：3 年以内 中期：5 年以内 長期10 年以内 超長期10 年以上

部門名

町民参加・協働

参加者名

B班

林昭光 小平史伸 齋木薫

二藤勲 畑中豊子 山口光宏

主旨

DATE. 2005 / 10 / 18 No.1

まちづくりの柱、方針 (基本項目、主題)	実現のための具体的な取り組み施策、事業、プロジェクト (こんなことに取り組んでいきたい)	誰が主体			いつごろまでに			
		行政	住民	企業	短期	中期	長期	超長期
(1) 行政と町民との協働	1) 住民・企業・行政が参加した地域活性化センター(森町シンクタンク)							
	2) 協働についての町民研修 知恵の創出と相互理解のため							
	各地区ごとに実施							
	子育て、行財政、防災、健康、福祉など多分野について							
	年代別研修プログラムで、少しずつ成長する							
	町外、外国の先進地域へのミッションを行い、知識を広める							
	3) 森町だけで行うのではなく、広域での協働により活動を広げる							
	子育て支援施設やサービスの活用							
	地域通貨による連携・協力							
	4) 協働のまちづくりの条例化							
	・協働を町の施策として位置づけ実質的に推進するため							
	・条例化されないと財政支援の確立ができない							
	・企業との連携、税制改革によるボランティアへの寄附の免税など							
	(2) コミュニティ	1) コミュニティについての研修・意識啓発						
若い頃からのコミュニティ活動の学習								
企業の理解と協力必要 活動の登録制(行政)により会社などで認められる								
2) 地域ごとの目標(テーマ)をつくり地域で活動する								
	やる気のある人が集まり活動する							

記入例： 誰が主体 / 主な主体に 2 以上の場合はメインに いつごろまでに / 短期：3 年以内 中期：5 年以内 長期10年以内 超長期10年以上

部門名

健康・福祉

参加者名

C班

岩田春喜 大場たつ子 辻克美

山本玲子

主旨

DATE. 2005 / 10 / 18 No.1

まちづくりの柱、方針 (基本項目、主題)	実現のための具体的な取り組み施策、事業、プロジェクト (こんなことに取り組んでいきたい)	誰が主体			いつごろまでに			
		行政	住民	企業	短期	中期	長期	超長期
医療	・森町病院の活用(福祉支援など)							
	・天浜線に森町病院前駅を作る							
福祉全般	・町民全体をユニバーサルデザインに配慮したまちにする							
	・エコマネーの導入							
高齢者福祉	・元気な高齢者が住みやすい町に。(介護予防)							
	・高齢者の生きがいづくり							
	・高齢者と子どものふれあいの場							
	・サロン活動を各地に広げる							
	・リタイヤする団塊の世代の活躍できる場							
	(運転ボランティア、介護ボランティア、自分の技術が生かせる場)							
障がい者(児)福祉	・障がい児の学童保育、毎日できるように(場所の確保)							
	・障がい者(児)施設をまちなかに持ってくる							
	・全国で初の障がい児受け入れキャンプ							
	ボランティアの育成(介護、医療ボランティア) 受け入れる場所							
地域福祉	・高齢者世帯への声かけ支援(地域で近所の支えあい、声かけ)							

記入例： 誰が主体 / 主な主体に 2 以上の場合はメインに いつごろまでに / 短期：3 年以内 中期：5 年以内 長期10年以内 超長期10年以上